

第2章

学 修 案 内

3 授業と履修

授 業

授業などの年間スケジュールは学生ポータルサイト（UNIPA）を参照してください。
 変更などの通知はすべて学生ポータルサイト（UNIPA）により行うので、必ず確認をしてください。

1 授業時間

本学部の授業時間は50分です。平成30年度より、下表の「J1～J8時限」の時間で授業が行われます。

なお、本学部の授業開始・終了のチャイムは鳴りません（他学部や大学院等の授業に合わせたチャイムが鳴りますが、本学部の授業には関係ありません）ので、注意してください。

2018（平成30）年度東京千住キャンパス授業時間

	学部 (工学部、未来科学部、システムデザイン工学部) 100分：原則14週授業	学部 (情報環境学部) 50分、週複数回：14週授業	大学院 (工学研究科、未来科学研究科、情報環境学研究科) 100分：原則14週授業	工学部第二部 90分：原則15週授業	
9:00					9:00
9:10					9:10
9:20					9:20
9:30					9:30
9:40		J1時限 9:10-10:00		N1時限(土)のみ 9:00-10:30	9:40
9:50			1時限 9:20-11:00		9:50
10:00					10:00
10:10		J2時限 10:10-11:00			10:10
10:20	1時限 9:20-11:00				10:20
10:30					10:30
10:40					10:40
10:50					10:50
11:00					11:00
11:10		J3時限 11:10-12:00		N2時限(土)のみ 10:40-12:10	11:10
11:20			2時限 11:10-12:50		11:20
11:30					11:30
11:40					11:40
11:50					11:50
12:00					12:00
12:10					12:10
12:20		昼休み 12:00-12:40			12:20
12:30				昼休み 12:10-13:10	12:30
12:40					12:40
12:50					12:50
13:00		J4時限 12:40-13:30			13:00
13:10	昼休み 12:50-13:40		昼休み 12:50-13:40		13:10
13:20					13:20
13:30		J5時限 13:40-14:30		N3時限(土)のみ 13:10-14:40	13:30
13:40			3時限 13:40-15:20		13:40
13:50					13:50
14:00					14:00
14:10		J6時限 14:40-15:30			14:10
14:20	3時限 13:40-15:20				14:20
14:30					14:30
14:40					14:40
14:50		J7時限 15:40-16:30		N4時限(土)のみ 14:50-16:20	14:50
15:00			4時限 15:30-17:10		15:00
15:10					15:10
15:20					15:20
15:30					15:30
15:40		J8時限 16:40-17:30			15:40
15:50					15:50
16:00					16:00
16:10	4時限 15:30-17:10				16:10
16:20					16:20
16:30					16:30
16:40					16:40
16:50					16:50
17:00				N5時限 16:30-18:00	17:00
17:10					17:10
17:20					17:20
17:30					17:30
17:40			休息		17:40
17:50					17:50
18:00	5時限 17:20-19:00				18:00
18:10					18:10
18:20					18:20
18:30					18:30
18:40					18:40
18:50					18:50
19:00				N6時限 18:10-19:40	19:00
19:10					19:10
19:20					19:20
19:30					19:30
19:40					19:40
19:50					19:50
20:00					20:00
20:10					20:10
20:20					20:20
20:30					20:30
20:40					20:40
20:50					20:50
21:00				N7時限 19:50-21:20	21:00
21:10					21:10
21:20					21:20
21:30					21:30

2 休講・補講・授業予備日

(1) 休講

①授業担当教員の止むを得ない事情により授業が休講になる場合は、基本的には前日までに担当教員から連絡、または学生ポータルサイト（UNIPA）で知らせます。

②学校行事を行う場合の休講は、学生ポータルサイト（UNIPA）で知らせます。（年間行事日程参照）

③交通ストライキ等の場合の授業の取扱い

首都圏JR各線及び東京千住キャンパス最寄り駅（北千住駅・京成関屋駅）に乗入れる私鉄・地下鉄線がストライキ等により運休と報道された場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

1. 午前6時において運休が解除されている場合は、平常通りの授業を行います。
2. 午前6時において運休の場合は、第J1～J4時限目（9：10～13：30）の授業は休講となります。
3. 午前9時において運休の場合は、第J5～J8時限目（13：40～17：30）の授業は休講となります。
4. 情報環境学部以外の学部との同時開講科目は、同時開講する他学部の取扱いに準じます。

※その他の私鉄のみがストライキ等により運休のときは、平常通り授業を行います。

④自然災害発生時等の授業の取扱い（台風等による暴風警報が発令された場合）

東京23区に暴風警報が発令されている場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

1. 午前6時において暴風警報が解除されている場合は、平常通りの授業を行います。
2. 午前6時において暴風警報が発令されている場合は、第J1～J4時限目（9：10～13：30）の授業は休講となります。
3. 午前9時において暴風警報が発令されている場合は、第J5～J8時限目（13：40～17：30）の授業は休講となります。
4. 情報環境学部以外の学部との同時開講科目は、同時開講する他学部の取扱いに準じます。

なお、暴風警報が発令されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化することがありますので、状況に応じて休講の措置をとる場合があります。

大学発表の情報を必ず確認してください。

また、授業開始後に暴風警報が発令された場合は、学内放送、大学ホームページ及びポータルサイトで授業措置の情報を発信します。

⑤その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合があります。その場合には、直ちに大学ホームページ及びポータルサイトへ掲載するので、各自確認してください。

(2) 補講

補講授業を行う場合は、担当教員や学生ポータルサイト（UNIPA）により事前に指示があります。

(3) 授業予備日

本学部で定めた授業回数を確保するため、前・後学期終了前の数日、授業予備日を設けています。2018年度は下記のとおりです。授業予備日に実施される授業時間割は学生ポータルサイト（UNIPA）によりお知らせします。

(前学期) 7月23日(月)～24日(火) (後学期) 1月9日(水)～11日(金)

3 授業への出席／欠席届

東京千住キャンパスの出席は各教室の入口に設置されているカードリーダー（出席管理）にタッチすることで、出席記録をとります。しかし、情報環境学部は他の昼間学部（100分授業）と異なるため、出席のとり方は千葉ニュータウンキャンパスで使用をしていたハンディ型出席リーダーを用いて出席をとります。他学部他学科履修をする際は、各教室の入口に設置されているカードリーダー（出席管理）にタッチをして出席をとりますので、間違いのないよう注意をしてください。

履修した科目の授業には毎回出席することが必要です。当学期における多くの授業は、積み重ねにより目標を達成するように構成されていますから、安易に授業を欠席することは、履修の目的に反することになります。止むを得ない理由で授業を欠席しなければならない場合には、担当教員、クラスメイト、学生ポータルサイト等により欠席した授業内容を早めに補完せねばなりません。

なお、授業に欠席した場合は、「欠席届」を提出してください。

- ・ 短期間…欠席した授業科目担当教員に直接提出してください。
- ・ 長期間および入院…医師の診断書を添付の上、保証人の欄に記入捺印し、事務部へ提出してください。

4 授業担当教員

授業を担当する教員には常勤教員と非常勤教員がいます。非常勤教員は、原則として担当科目が行われる時のみ大学に来校します。用事がある場合は、直接、授業の教室へ行くか、東京千住キャンパス講師室（2号館3階）へ行くか、シラバスに記載のメールアドレスに問い合わせてください。シラバスに記載の連絡先以外はお答えできません。取り次ぎもできませんので授業時に確認することをお勧めします。

常勤教員は学会あるいは公務による出張等がない限りキャンパス内にいます。皆さんは、オフィス・アワー（教員が指定した時間であればアポイントなしに自由に質問できる制度）や電子メールによるアポイント等により、授業に関する質問や相談を受けることができます。

質問等は積極的に行うことが大切です。

教員の一覧表やオフィス・アワーはシラバス等で参照できます。

5 クラスと学生アドバイザー

本学部は学年制を採用しておりませんので、通常の学年によるクラスは存在しません。皆さんにとってクラスに代わるものは、入学年によるグループ、あるいは基礎プロジェクトや環境パフォーマンスのグループ、卒業研究・開発型プロジェクトのグループなど、科目履修により成立する学修集団がクラスとなります。つまり多様な学修集団のクラスが成立し、幅広い交流が生まれる可能性を秘めています。

ただし、学修上あるいはその他の相談のためのアドバイザー担当として、入学年による学生アドバイザーを設置し、卒業するまでクラスのアドバイザーとして、クラスで行う行事や各種手続き事項に関する指示や相談のほか、学修上の問題や個々の悩みなどの相談に応じます。

学生アドバイザーについては4月以降学生ポータルサイト（UNIPA）でお知らせします。

6 オフィス・アワー

オフィス・アワーは、教員が学生との面談のために教員室で待機している時間のことです。皆さんは、オフィス・アワーには自由に教員に質問や相談をするために教員室を訪れることができます。

オフィス・アワーはすべての学生に公開されています。多くの教員の話や聞く良い機会です。幅広い見識を身につけるためにも、情報環境学のみでなく種々の専門の教員と話し合うことは重要です。

なお、オフィス・アワーは個人だけのものではありません。すべての学生に開かれたものであり、学生が長時間、教員室で過ごすための時間ではありません。話したいことを事前にまとめ、短時間で適切な相談や話し合いができるように心がけましょう。

また、オフィス・アワーは各教員によって異なります。これらはシラバスや学生ポータルサイト（UNIPA）に掲載されています。

7 配当期

(1) 前学期（春Semester）

4月1日～8月31日までを前学期（春Semester）といいます。前学期期間中に授業が行われる科目を前学期科目（春Semester科目）といいます。これらの科目は中間・期末試験、レポート、小テスト、プレゼンテーション等の総合評価により単位が認定されます。

(2) 後学期（秋セメスター）

9月1日～翌年3月31日までを後学期（秋セメスター）といいます。後学期期間中に授業が行われる科目を後学期科目（秋セメスター科目）といいます。これらの科目も中間・期末試験、レポート、小テスト、プレゼンテーション等の総合評価により単位が認定されます。

8 集中講義

(1) 導入教育

導入教育とは、大学生活を始めるに当たり、入学したセメスターに約1週間をかけ、連続して大学で学ぶ心構え（自らのカリキュラム設計する）を教員と一緒に考える授業です。

これまで小学校から高校まで学んだ知識を基に、皆さん個々の特性や興味、関心を更に膨らませ、より高度な学問追求のできる能力を磨き、発見する場が大学です。

皆さんは、明確な目的意識とやる気（モチベーション）を高め、自らの夢と希望を実現しなければなりません、その導入部に位置づけられているのがこの導入教育科目です。

(2) 集中講義科目

夏季・冬季・春季の休業中の一定期間、連続集中して授業がおこなわれる科目です。集中講義科目の時間割は学生ポータルサイト（UNIPA）で発表されます。

9 レポート等の提出先

東京千住キャンパス移転に伴い、レポート提出先が変更されます。担当教員の指定先へ期限までに提出してください。

提出場所 ・2号館3階 レポートボックス
・教員の指定場所 等

十分に注意をしてください。

10 授業アンケート

授業アンケートは、東京千住キャンパス移転後も従来と同じフォーマット（用紙）を使用します。

※他学部他学科履修をした場合、情報環境学部のフォーマット（用紙）とは異なるフォーマットとなりますので注意してください。

履 修

1 履修計画

本学部に入學した学生が最初に行うことは、集中講義の「カリキュラム計画」を受講し、各自の卒業までの履修計画を立てることです。これは一見無謀なことのように思えますが、大学に入學した目標を明確にするという観点から考えれば自然なことです。大学に入學したとき皆さんは何か希望を持っているはずですが、たとえそれがおぼろげなものであったとしても、それに向かって進むためには何をどのように学修すべきかを知らなければなりません。カリキュラムマップ (P. 39~46) を参考に、皆さんが将来の目標を掲げる (決める) ために必要な科目を系統的に学んでください。無理のない順序でそれらを学修することにより、その目標に向かって専門性を高めることができます。1年程度学修を進めると、皆さんが立てた目標を修正したいということが生じます。その場合を想定して毎年、学期 (セメスター) の始めに自己の目標を再確認し、それを新たな目標として更なる学修に取り組むことを、卒業の1年前まで続けてください。絶えず目標を持って学修することにより皆さんの能力は何倍にも高められるでしょう。

履修申告 (登録) をして授業に出席することを「授業科目を履修する」といい、その科目を「履修科目」と呼びます。

(1) 履修計画のたてかた

各自によって異なりますが、次のことを参考に履修計画を進めてください。

- ①「カリキュラムマップ」を参考に、卒業までの履修科目の見通しをたてます。
- ②授業科目配当表と授業時間割を参照し、卒業までの時間割を作成します。入学時の第1セメスターでの履修は最大限19単位に抑え、自分のペースをつかむ導入セメスターと考えると良いでしょう。この作業は「カリキュラム計画」という科目の中で多くの教員によるサポートのもとに実施されます。
- ③2年目以降の学生は学期始めに目標の見直しを行います。前の年に提出した時間割とその目標に変更が無いかどうかを検討します。例えば、履修した結果、成績評価や自分の特性に合った履修計画となっていたか総合的に判断し、改めて今後の目標を再考し、修正すべき箇所があれば修正します。この作業は卒業の前の年まで続けられます。
- ④科目配当表に示すように、科目には4ケタの科目番号が付けられています。3ケタの数字の前に、アルファベットの記号、I (導入・リテラシー科目)、C (素養科目)、E (英語科目)、K (基礎基幹科目)、S (コース基幹科目・コース一般科目)、M (数学系科目)、P (演習・プロジェクト科目) が付けられています。
- ⑤通常は、1セメスターに21単位が履修できる上限の単位数ですが、直前のセメスターでGPA 2.950以上 (平成23年度以前入学生)、2.200以上 (平成24年度以降入学生) の成績を取ると、25単位まで履修できます (P. 62参照)。後に説明する「評価の保留」とした科目を履修する場合も、原則25単位まで履修できます。「評価の保留」の適用を受

ける場合は、学科長と授業担当教員の許可を受ける必要があります。

- ⑥当該 Semester で履修しようとする科目については、シラバスによりその内容をつかむようにしてください。シラバスには科目の内容のみでなく、評価の仕方やレポートの提出方法などが詳細に示されています。
- ⑦所属する学部以外（他学部・他大学）の科目も一定の条件内で履修でき、60単位までの修得単位を卒業要件に含めることができます。

2 履修申告、履修申告の流れ

(1) 履修申告

各自がどの授業に出席し、どの科目を修得しようとしているのかをあらかじめ届け出ることを履修申告（登録）といいます。授業科目を履修するには、必ず履修申告をしなければなりません。原則として履修申告していない科目の授業には出席することはできません。

- 履修申告は各学期ごとに実施します。

（カリキュラム計画で考えた4年分の履修計画を参考にしてください）

①履修科目の抽選（履修申告期間前）

各学期の最初の授業の出席学生数により、授業担当教員が教育効果の観点から人数を制限する必要があると判断した場合には、抽選を実施します。**最初の授業には、必ず出席するようにしてください。**

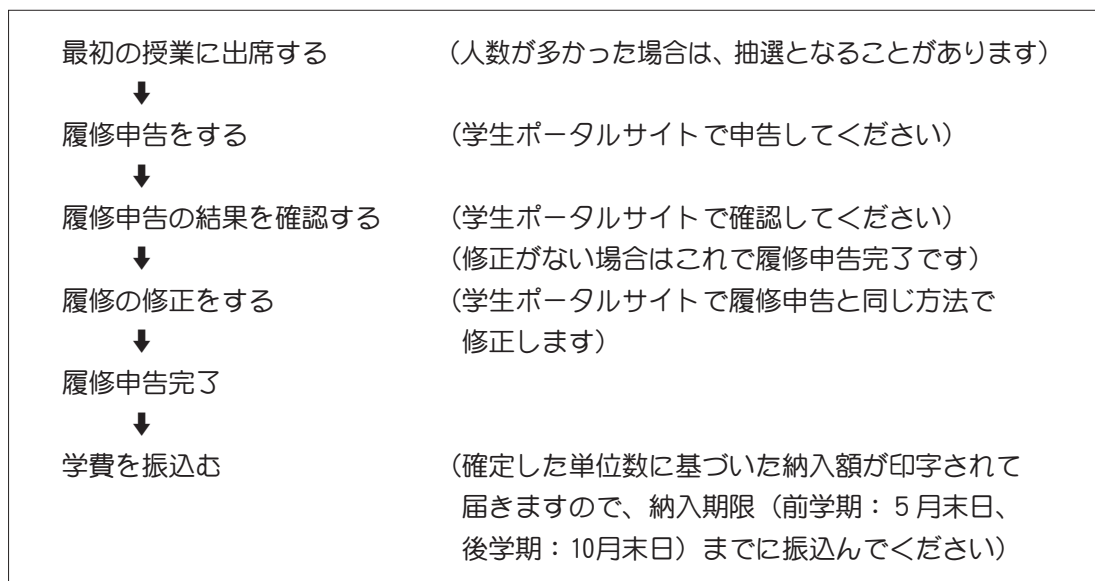
②履修申告の期間

履修申告の期間は、春 Semester では4月中旬、秋 Semester では9月中旬と Semester によって異なります。詳細につきましては学生ポータルサイト（UNIPA）でお知らせしますので、必ず履修申告期間内に手続きを済ませてください。

③履修申告の方法

履修申告は、原則各自がパソコンで**履修申告の期間毎**に学生ポータルサイト（DENDA I-UNIPA）から入力します（素養科目の一部（学生ポータルサイト（UNIPA）の掲示等で指示）、e-Campus科目、教職課程の科目、他学部履修等は除く）。時間割の構成が適切になっているかどうか、例えば、登校、昼休み、下校等のスケジュールが各自に無理のない構成になっているかを確認してから履修申告を始めてください。科目によってはクラスを少人数に分割する関係で、各自の思い通りに履修ができない場合もありますから、十分に工夫することが必要です。（クラス分割については担当教員から指示（学生ポータルサイト（UNIPA）の掲示等）があります。）

(2) 履修申告の流れ



(3) 「ボランティア活動」について

履修申告は随時受付ますが、**卒業を希望する Semester には履修できません**。また、履修申し込み前の奉仕活動は評価の対象外で、単位認定は1活動のみです。なお、本科目は履修上限単位数には含めず、単位従量額算出の対象外です。

3 履修制限について

むやみに多くの科目を履修すると、十分な理解が得られず結果的には実力の付かないことになる場合があります。そこで本学部は1 Semester で平均的に適切な履修単位数の上限を21単位と定めています。したがって、原則的に1 Semester でこれ以上の単位履修はできません。これについては例外事項もありますから履修制限に対する種々の条件を下記に示しておきます。

(2017(平成29)年度より「通常の1 Semester あたりの上限単位数」を21単位へ見直しをおこないました。)

〈2016(平成28)～2012(平成24)年度入学生〉

通常の1 Semester あたり上限履修単位数	21単位まで履修可能
前 Semester の GPA が2.200以上の場合	25単位まで履修可能
履修保留科目の履修を含む場合	25単位まで履修可能 ※1

〈2011(平成23)年度以前入学生〉

通常の1セメスターあたり上限履修単位数	21単位まで履修可能
前セメスターのGPAが2.950以上の場合	25単位まで履修可能
履修保留科目の履修を含む場合	25単位まで履修可能 ※1

- ※1. 学科長と授業担当教員の許可を必要とします。
 ※2. GPAの値は小数点第4位を四捨五入した値です。
 ※3. 編入学者、転入学者、転学部者、復学者の最初のセメスターは、21単位まで履修可能。

4 科目履修における事前履修条件

ある分野の専門家になるためには、学修しておかなければならない重要な科目がいくつかあります。情報環境学は基礎から徐々に専門性を深め、高度な分野へ進んでいくことが必要です。無秩序に科目を履修してしまうと、ほとんど理解できない結果に終わってしまうことになりかねません。そこで、ある科目を履修するために事前に学修しておかなければならない科目を明確にしておくことで、履修の計画を立て易くする必要があります。そのような目的で作られたものが事前履修条件です。

事前履修条件

※平成27(2015)年度の履修申告より、事前履修条件の基準が変更となりました。
 平成27(2015)年度の履修申告から、事前履修条件の科目の成績評価がS・A・B・C判定およびR認定(P.51参照)の単位修得の場合のみをクリア条件として認めます。
 履修する時点でD判定でのクリアは認めません。

(例)「コンピュータプログラミングB」を履修したい場合

※次年度以降にカリキュラム変更があり、事前履修条件が変更された場合は、学生要覧等の指示に従うこと。

【平成27(2015)年度以降】

・事前履修条件「コンピュータプログラミングA」の最新の成績が「D判定」

→ コンピュータプログラミングBを履修できない。

(履修する時点における事前履修条件科目の最新の成績がS・A・B・Cでない
と履修出来ません)

なお、転学部・編入学した学生に限り、指定された科目を履修していなくても、十分な知識を修得していると授業担当教員が判断した場合には、履修が認められます。履修しようとしている科目に事前履修条件が設定されている場合には、授業担当教員に申し出てください。

5 「基礎プロジェクト」科目の着手条件

「基礎プロジェクト」科目を履修するには、学期初めに実施する履修ガイダンスへの出席ならびに修得単位数（68単位を修得済み）の条件を満たす必要があります。詳細は、履修ガイダンスで説明しますので、履修希望者は必ず出席してください。

6 「卒業研究・開発型プロジェクト」科目の着手条件

〈平成23年度以降入学生〉

「卒業研究・開発型プロジェクト」科目を履修するには104単位を修得済みで、その中に導入・リテラシー科目2単位、素養科目と英語科目で合計31単位以上（ただし英語科目は6単位以上）を含んでいることが必要です。さらに研究室により固有の追加条件が課せられます。履修に当たってはシラバスの内容を十分に確認してください。

ただし、早期卒業または大学院への飛び級入学を希望する成績優秀者は、学科長に申し出て履修許可を得れば、上記着手条件を満たさなくても「卒業研究・開発型プロジェクト」を履修することができます。

7 再履修・他学部等の履修

[1] 再履修

履修した授業科目の単位を修得できず、もう一度その科目の履修をやり直すことを「再履修」といいます。再履修科目の履修申告・受講等については、新規履修の場合と同様ですが、過去の履修履歴は削除されます。

単位修得済みの科目については再履修できません。

[2] 他学部・他大学・大学院履修

(1) 他学部科目の履修

自分の所属する学部に配当がなく、システムデザイン工学部、未来科学部、工学部、工学部第二部、および理工学部の他の学部に配当されている科目について履修を希望する学生は、履修申告期間開始前に、学生アドバイザー・学科長と履修計画を相談し、了解を得てください。了解を得た後、授業科目担当の承認を受けることにより履修することができます。(但し、同一の科目名や授業内容が同一または類似している場合は認められません。)

なお、他学部の科目を履修する時も単位従量制により必要な金額を支払わなければなりません。ただし履修登録は学生ポータルサイト (UNIPA) での登録ではなく、所定用紙での登録となります。

また、修得した単位のうち、教授会等が教育上有益と認めたものは、本学部における

授業科目の履修により修得したものとみなします。

(2) 東京理工系4大学の単位互換について

東京電機大学・工学院大学・芝浦工業大学・東京都市大学の4大学間において、単位互換の協定を締結しています。これにより特別科目等履修生として、上記の本学を除く他の3大学の科目を受講することが可能となり、単位を修得することができれば、単位従量制により必要な金額を支払った上で、卒業所要単位数に加えることができます。(大学によっては、受講を制限する科目および受講者数を制限する科目がありますので、申請しても必ず履修できるとはかぎりません)

履修方法・履修可能科目などについては、事務部へ問い合わせてください。

(3) 大学院科目の先取り履修

学部在籍中に大学院情報環境学研究科の開講科目の履修を認める制度(先取り履修制度)があります。(但し、学部在籍中には当該科目の単位認定は不可、単位認定は大学院入学後)

先取り履修科目に事前履修条件となる科目が設定されている場合がありますので、学生ポータルサイト(UNIPA)で確認して履修してください。

履修方法等詳細については、事務部へ問い合わせてください。

転学部・編入学・再入学者等の特別履修

単位認定の関係上等の理由により、事前履修条件を考慮しない履修など、通常外の履修を希望する時は、事務部へ問い合わせてください。

在学中における修学活動等

本学部の授業科目について、十分な知識を修得していると考えられ、教授会が教育上有益と認めた場合、他の大学等で修得した科目の単位を認定する場合があります。単位認定を希望する場合は、「単位認定申告書」に、成績証明書および講義要目を添付し、単位修得直後のセメスター開始時(履修申告開始前)までに事務部へ申し出てください。また、休学中に海外等で修得した科目の単位認定についても同様です。

8 履修科目の保留の扱い（科目保留）

履修の途中で、病気あるいは事故等により長期にわたり授業を欠席する場合には、その授業の履修を、次セメスターあるいは次年度の同一セメスターまで保留することができます。既に述べたように、授業は原則50分週2回ないし3回で短時間集中的に行われます。科目によっては2週間程度の欠席で単位の修得が難しくなります。そのような場合、現在行っている授業科目の履修を一時的に取りやめ、その科目の履修を次セメスターあるいは次年度のセメスターに限りて再度履修することができるようにする救済措置があります。もちろん、この場合の単位従量制による授業料は、既に支払われ保留した分をあてることとなります。

※ 履修科目保留願は、学生自身が情報環境学部事務部に願い出て申請するものです。（やむを得ない場合は保証人が申請を代理することができます）
詳細は、以下のとおりです。

2週間以上授業を欠席し、その授業の保留を申請する場合には、授業担当教員と相談した上で、

(1) 「履修科目保留願」（授業担当教員・学科長の承認が必要）

(2) 「診断書」または「欠席の理由書」

以上2点を申請者自身または保証人が情報環境学部事務部に提出することにより、1年以内（休学期間は期間に含まず、以後2セメスター以内に再度単位従量額を納めず履修可能）の条件で評価を保留することができます。

（提出しても、認められない場合がありますので、情報環境学部事務部窓口で確認してください。）

申請期間は原則として履修した学期内とします。

なお、休学により履修時期を変更したい場合は別途手続きが必要となります。

また、保留する科目は履修した科目から本人が選ぶことができます。

（単位修得が困難な科目のみを保留にすることも可能）

【注意】

- ・ 悪用が発覚した場合は、履修した全ての科目を不合格とするだけでなく、学則により処罰する場合があります。
- ・ 保留科目を1年以内（休学期間を除く）に履修しなかった場合は、当該科目の評価はE評価となります（時間割変更等により履修できなくなった場合を含む）。なお、平成24年度中に所定の手続きをとりながら、評価を保留扱いとした科目を1年以内（休学期間を除く）に履修しなかった科目、または既に1年以内（休学期間を除く）に履修しなかった科目がある場合（Pと表記）は、卒業や退学・除籍となった際にE評価となります。

〈保留科目の履修方法について〉

保留科目に関しては、学生ポータルサイト（UNIPA）で履修申告することはできません。

（単位従量額が加算されてしまいます）

履修期間内に情報環境学部事務部で手続きを行ってください。

第2章

学 修 案 内

4 その他・学修に関すること

学習サポートセンター

1 学習サポートセンター

本学部の教育理念は「自主・自立」です。自分で考え、行動できる人材を育成しようという考えに基づき、自ら学ぼうとする学生のために「学習サポートセンター」を設置しています。

1. 教員構成

本学常勤教員・非常勤教員・学習サポートセンター指導員・ティーチングアシスタント(TA)

2. 対象科目

数学・英語・物理・化学

プログラム相談は対応していませんので、サポートが必要な学生は授業後に直接担当教員にお問い合わせください。

3. 実施形態

①個別指導による学習支援

②グループ学習（ミニ講義や補習などの時間割制による講義形式等）

4. 実施場所

学習サポートセンター 2号館3階 20301室

※各科目の詳細については学生ポータルサイト（UNIPA）または本学のホームページを参照してください。

英語で開講する素養科目の取扱について

【履修について】

- ①日本語で開講する科目を履修し合格した後、英語で開講している同じ名称の科目で（実践英語）と（技術英語）とある科目を履修することは可能です。合格した場合は、「実践英語」もしくは「技術英語」に振り替えることができます。
- ②最初に英語で開講する科目を履修することも可能です。
ただし、英語で開講する科目を履修し合格した後は、日本語で開講している同じ名称の科目を履修することはできません。
- ③最初に英語で開講する科目を履修し合格した後、もう一度、同科目の「実践英語」もしくは「技術英語」を履修することはできません。

【具体例】

- ①日本語で開講する科目「国際関係論」を履修し合格した後、英語で開講している科目「国際関係論（実践英語）」を履修することは可能です。合格した場合、「実践英語」に振り替えることができます。（ただし、「国際関係論（英語）」を履修することはできません。）
- ②英語で開講する科目「国際関係論（英語）」を最初に履修することも可能です。ただし、合格した後は、日本語で開講している科目「国際関係論」を履修することはできません。
- ③英語で開講する科目「国際関係論（英語）」を履修し合格した後、「国際関係論（実践英語）」を履修することはできません。

【科目標記の例】

「国際関係論」	⇒	日本語で開講することを意味します。
「国際関係論」（英語）	⇒	英語で開講することを意味します。
「国際関係論」（実践英語）	⇒	英語で開講しますが、すでに日本語で開講している科目を履修し合格している場合のみ、こちらを履修します。合格した場合に「実践英語」に振り替えられます。

ただし、「実践英語」または「技術英語」に振り替えられるのは各々1回（1科目）のみです。

詳細は次頁で確認して下さい。

	履修する科目 (A) (在学中に成績表等に表示される科目)	事前履修条件	(A) を修得済の場合は履修不可 (A) と同時履修は不可	卒業後に成績証明書に 表示される科目名
① 実 践 英 語	歴史Ⅱ	なし	歴史Ⅱ (英語)	歴史Ⅱ
	歴史Ⅱ (英語)	なし	歴史Ⅱ	
	歴史Ⅱ (実践英語)	歴史Ⅱ	歴史Ⅱ (英語) 実践英語 異文化理解 (実践英語) 国際関係論 (実践英語) 欧米・アジア事情 (実践英語) 時事問題 (実践英語)	実践英語
	異文化理解	なし	異文化理解 (英語)	異文化理解
	異文化理解 (英語)	なし	異文化理解	
	異文化理解 (実践英語)	異文化理解	異文化理解 (英語) 実践英語 歴史Ⅱ (実践英語) 国際関係論 (実践英語) 欧米・アジア事情 (実践英語) 時事問題 (実践英語)	実践英語
	国際関係論	なし	国際関係論 (英語)	国際関係論
	国際関係論 (英語)	なし	国際関係論	
	国際関係論 (実践英語)	国際関係論	国際関係論 (英語) 実践英語 歴史Ⅱ (実践英語) 異文化理解 (実践英語) 欧米・アジア事情 (実践英語) 時事問題 (実践英語)	実践英語
	欧米・アジア事情	なし	欧米・アジア事情 (英語)	欧米・アジア事情
	欧米・アジア事情 (英語)	なし	欧米・アジア事情	
	欧米・アジア事情 (実践英語)	欧米・アジア事情	欧米・アジア事情 (英語) 実践英語 歴史Ⅱ (実践英語) 異文化理解 (実践英語) 国際関係論 (実践英語) 時事問題 (実践英語)	実践英語
	時事問題	なし	時事問題 (英語)	時事問題
	時事問題 (英語)	なし	時事問題	
	時事問題 (実践英語)	時事問題	時事問題 (英語) 実践英語 歴史Ⅱ (実践英語) 異文化理解 (実践英語) 国際関係論 (実践英語) 欧米・アジア事情 (実践英語)	実践英語
	実践英語	なし	歴史Ⅱ (実践英語) 異文化理解 (実践英語) 国際関係論 (実践英語) 欧米・アジア事情 (実践英語) 時事問題 (実践英語)	実践英語
② 技 術 英 語	微分積分学	基礎数学	微分積分学 (英語)	微分積分学
	微分積分学 (英語)	基礎数学	微分積分学	
	微分積分学 (技術英語)	基礎数学 微分積分学	微分積分学 (英語) 技術英語 線形代数 (技術英語)	技術英語
	線形代数	なし	線形代数 (英語)	線形代数
	線形代数 (英語)	なし	線形代数	
	線形代数 (技術英語)	線形代数	線形代数 (英語) 技術英語 微分積分学 (技術英語)	技術英語
技術英語	なし	微分積分学 (技術英語) 線形代数 (技術英語)	技術英語	

①実践英語、②技術英語として単位修得ができるのは、各1科目のみです。